

平成28年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (1月26日実施)	総合評価(3月30日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>① 教育課程研究開発校として新科目公共の研究開発に取り組む。</p> <p>② 生徒の自立心を育てるとともに、社会参加の意欲を高め、問題解決能力を身につける教育課程を編成する</p>	<p>① 教育課程研究の一環として、授業数の確保に向けたカリキュラム編成と、新科目「公共」に関する研究を行う。</p> <p>② 生徒が主体的に授業に参加する指導方法の実践に努める。</p>	<p>① 「公共」に関して研究広報G、学事学習G等からなるプロジェクトチームを編成し研究を行う。情報収集や先進的取組を行っている学校への訪問等を積極的に行い教育内容や指導方法について検討する。</p> <p>② アクティブな授業展開に関する悉皆研修を年に1回、また複数回の研究授業を実施することで、授業改善の意識を向上させる。</p> <p>③ 定期テストの共通化率を90%以上にする。</p>	<p>① 研究の成果をまとめるとともに、実施上の課題と改善の方向を整理する。</p> <p>② 生徒による授業評価の項目4「生徒の授業への意欲」及び項目10「生徒同士で話し合った意見を発表する機会があった。」の2項目において、「ほぼ当てはまる」以上の回答が80%を超えたか。</p> <p>③ 定期テストの共通化率。</p>	<p>① 横浜中地区内において、充実した内容の生徒による研究発表及び担当教諭からの実践報告が実施できた。</p> <p>② 「生徒の授業への意欲」の項目で、80%を切る科目が4つほどあった。逆に実技科目である体育、芸術、家庭科などでは90%を上回っていた。</p> <p>③ 定期テストの共通化率は89%となり、ほぼ目標はクリアできた。</p>	<p>① 特定のクラスしか取り組めていないのが現状である。学年単位での試行等を模索していきたい。</p> <p>② 授業改善・アクティブラーニングの研修会が一昨年のように頻繁には持てなかった。職員の意識が向上しているのは確かである。</p> <p>③ 引き続き定期テストの共通化を進めていく。</p>	<p>① 「公共」への取り組みに関しては、未だ始まったばかりなので、2年目・3年目の成果を期待している。</p> <p>② ほとんどの生徒が授業マナーを守って前向きに取り組む姿勢が数字の上からでも読み取れる。是非この数値を維持してもらいたい。</p> <p>③ 共通化していない科目の障壁になっている部分を分析する必要があるのでは。</p>	<p>① まだまだ教科だけの対応となっており、学校としての、また教科横断的な視点での研究体制が構築できていない。</p> <p>② 複数回の研究授業を実施するとともに、ファシリテーター研修の中でポストイットを利用したコミュニケーションな授業方法の研究を実施した。</p> <p>③ 定期テスト共通化100%の学校からの情報収集にあたる。</p>	<p>① 規範意識の醸成とコミュニケーション能力の育成を主眼とする本校の教育目標に、「公共」という科目をうまくタイアップさせていくことで相乗効果が生まれるはずである。</p> <p>② 平成30年度からの55分授業実施を見据え、新たな授業計画を全教科で策定する一方、授業改善＝授業への意欲的な取り組みの喚起、という図式を改めて全職員で共通認識し、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。</p>
2 生徒指導・支援	<p>① キャリア教育の視点から、生徒の規範意識の醸成に引き続き取り組む。</p> <p>② 支援の必要な生徒に対して教育相談体制を確立する。</p> <p>③ 自己肯定感の向上に繋がる生徒支援方法を模索し、実現化する。</p>	<p>① チャイム前着席や携帯電話等電子機器の使用制限など、更なる規範意識の向上と生徒のモラル確立に取り組む。</p> <p>② 職員間で生徒の情報交換を一層密にし、支援を必要とする生徒により丁寧に対応する体制を作る。</p>	<p>① チャイム前着席指導も含め、全体の遅刻者数を10%程度減少させる。</p> <p>② 携帯電話等電子機器使用による指導数を極力減少させる。</p>	<p>① 前年度に比べ遅刻者数及び遅刻指導数を10%以上減らすことができたか。</p> <p>② 携帯電話等電子機器の授業時間中所持・使用禁止が前年度以上に定着し、指導数が半減したか。</p>	<p>① 遅刻者数は昨年度より微増しており、目標を達成することはできなかった。</p> <p>② 電子機器の一定時間内の所持・使用禁止は、上級生には定着してきたが、経緯のわかっていない1年生に指導するケースが多かった。</p>	<p>① チャイム前着席も含め、時間を守る大切さを生徒にことあるごとに伝えていく。</p> <p>② コミュニケーション能力向上のために行っていることを、改めて生徒に認識させる。</p>	<p>①②ともに、大事な取り組みだが、定着させるにはかなりの労力と根気が必要になる。ただ、あきらめたり、妥協したりせず、粘り強く指導を継続していくことが重要である。それができた時、生徒たちの自己肯定感にも繋がると思う。</p>	<p>① 本校の学校経営の根幹になる規範意識の醸成のためには、職員の一致した指導体制を再度確認し、情報交換を密にする必要がある。</p> <p>② HR 前の声かけ、授業前の声かけ、といった地道な指導が欠かせない。</p>	<p>① 平成29年度の学校の重点取り組み目標を「時間を守る、遅刻をしない。」に設定し、始業式、入学式で生徒に伝える。</p> <p>② 改めて生徒に電子機器の所持使用禁止の意義を伝え、生徒自らの意志で使用を控える意識を植え付けていく。</p>

3 進路指導・支援	<p>① 在学中のすべての教育活動を、キャリア教育の視点で展開する。</p> <p>② 生徒全員が自分の希望する進路先に進めるよう、入学時から計画的・継続的に指導する。</p>	<p>① 生徒に具体的な目標を持たせ自己肯定感を高めることによって、自分の将来の仕事を選べるような支援方法を確立する。</p>	<p>① キャリア支援の目標として、生徒の卒業後の進路に関して、未定の者を限りなくゼロに近づける。</p> <p>② インターンシップ、仕事のまなび場等の参加率前年度比10%増を目指す。</p>	<p>① 3年生の進路を、本人の希望通り決定できたか。また、未定の者ゼロの目標が達成できたか。</p> <p>② インターンシップ、仕事のまなび場参加者数が、それぞれ前年度比10%アップが実現できたか。</p>	<p>① 就職で未定者がでたが、純粋なフリーターは一人も出なかった。丁寧な指導の結果、進路先をしっかりと確保できた。</p> <p>② インターンシップの参加希望者がかなり減った。仕事のまなび場は数名の参加があったが、充実した内容だった。</p>	<p>① 本校のキャリア指導の理念である「フリーターを出さない。」を今後も継続していく。</p> <p>② インターンシップや仕事のまなび場への参加は、量より質への転換も念頭に入れていく必要があるかもしれない。</p>	<p>①② 本校が長年に渡って取り組んできた「キャリア教育」の理念を継続し、個々の生徒に対する丁寧な指導がしっかり行われている。今後も生徒全員の進路先決定を目標に、取り組んでもらいたい。</p>	<p>① 一般入試での久しぶりの六大学合格など、顕著な成績を残す生徒がいたことは収穫であった。また、安易に専門学校進学を目指す生徒も減っている。自分の将来をしっかりと考えるよう指導してきた成果が出ている。</p>	<p>① キャリア教育の継続は、本校の変わらないテーマなので、キャリア教育実践プログラムをより具体化し、シチズンシップ教育を盛り込んだ内容で検証を進めていく。</p> <p>② インターンシップや仕事のまなび場については、意義の啓発を推進すると同時に、指導方針や参加形態を再考することも必要か。</p>
4 地域等との協働	<p>① コミュニティースクールを新たに展開することで、更なる地域との連携体制を推進する。</p> <p>② 小中高の縦の連携を深め、地域に根差した教育を展開する。</p>	<p>① 学校説明会や文化祭の内容を更に充実させることで、外部からの来校者数を増やす。</p> <p>② 三ツ境養護学校や近隣小中学校に職員を派遣し、他校種との交流を通して連携を図る。</p>	<p>① 学校説明会や文化祭の充実、広報活動の活性化を通して、本校への志願者数10%増を目指す。</p> <p>② 研修として他校種へ5名以上の教員を派遣する。</p>	<p>① 前年度、前々年度と違って、中学生の本校への志願者数（志願変更前）が定員を超えたか。</p> <p>② 他校種交流の人数。</p>	<p>① 学校説明会は内容の精選、工夫、生徒の参加場面増やすなどして、前年度比8%増となり、目標はほぼ達成できた。</p> <p>② 他校種との交流に関しては、三ツ境養護分教室の授業観察等を新たに導入できた。</p>	<p>① 説明会や文化祭の来校人数は増えているが、実際の入学志願者が相変わらず伸び悩んでいる原因を再度分析していく必要がある。</p>	<p>①② HP や説明会など様々な面で広報活動をより活性化し、安全安心に勉強できる今の瀬谷西高校の姿をアピールしてってもらいたい。そのためは、地域との交流等を通じた協力依頼も考慮したほうがいい。</p>	<p>① 学校広報活動の大切さは、学校の魅力を改めて職員・生徒が認識する上でも重要である。生徒減の時代を迎えるに当たって、改めて「行ってみたい高校」像の確立を図りたい。</p> <p>② 分教室との交流は更に拡大していく。</p>	<p>① コミュニティースクールの導入に向けて校内組織を立ち上げる。これからの県立高校のあり方は、小中高を含めた地域力の活用や、外部機関との交流が不可欠になっていく。部活指導者の外部招聘等将来を見越した学校経営が求められる。</p>
5 学校管理 学校運営	<p>① 職員の共通認識を深め、一体となった学校経営を推進する。</p> <p>② 何よりも安全安心に基づく、信頼される学校作りに専念する。</p>	<p>① 緊急時の生徒・保護者との連絡体制を整備する。</p> <p>② 防災訓練の内容を見直すなど、意識の啓発に努める。</p> <p>③ 創立40周年事業として生徒に還元できる設備備品の充実を図る。</p>	<p>① 本校で採用しているマチコミメールの登録者数10%増を目指す。</p> <p>② 本校だけではなく、地域や関係機関の方を招いての防災訓練を実施する。</p>	<p>① マチコミメール加入者数が、新入生・在校生とも60%以上となり、前年度比10%増を実現できたか。</p> <p>② 防災訓練を、地域や関係機関と合同して実施できたか。</p>	<p>① HP を全面的に見直し、見易い環境を設定できた。発信数も前年度より30%近く増えた。マチコミメールの浸透数も微増している。</p> <p>② 従来校内だけ実施していた防災訓練に、瀬谷消防署の方を招いて訓示をいただいた。</p>	<p>① マチコミメールを使っでの保護者向け案内の発信を増やすことで、登録者数も増えていくことが予想される。</p> <p>② 東日本大震災から5年経過し、記憶が風化しないよう、機会を見ては防災の意識啓発に努める。</p>	<p>① 緊急時連絡と言う観点でマチコミの普及を更に目指すべきである。</p> <p>② 40周年と言う節目の年に、改めて安全・安心な学校施設という観点で、地域と連携した防災訓練の実施や老朽化対策、トイレを含めた環境改善に目を向けてほしい。</p>	<p>① 学校として危機管理体制の意識の啓発に努めてきたが、事故防止も含め、より一層緊張感のある職場を目指す必要がある。</p> <p>② 40周年事業で体育館を中心に施設の改善プランを計画できた。速やかに実行したい。</p>	<p>① かながわ教育ビジョンに基づく「人づくり」の視点を、本校の学校理念の中核に据え、思いやる力、たくましく生きる力、社会とかかわる力の育成に努める。</p> <p>② 災害図上訓練(DIG)などの実践的防災訓練の実施を前向きに考える。</p>